

風土記の丘の花だより¹⁶⁷

今、そしてこれから見られる植物(2023年1月7日)

新年明けましておめでとうございます。今年もご愛読のほどよろしくお願ひ申し上げます。例年ならもうたくさん開花しているはずの小早川家のロウバイがやっとほころび始めました。ふきのとうは先だけチョココンと見えている程度です。

また今年も毎回4種類ずつ紹介していこうと思います。



道端にミチタネツケバナの白くて小さな花が咲いています。タネツケは「種浸け」のことで、田植え前に粃を水に浸けることです。そんな時期に咲くことからこの名前が付いていますが、早くも昨年末から咲き出しました。そっくりさんにタネツケバナがありますが、茎をよく見ると毛が生えているのが分かります。ミチの方には生えていません。どちらも今よく咲いています。



お正月に飾った方も多いのではないのでしょうか、ご存知のナンテンです。「難を転ずる」として縁起のいい馴染み深い植物です。有毒植物であることと、独特の香りがあることがそんなイメージを持たせているのでしょう。でも、毒は使いようで薬にもなるようで、「南天喉飴」は有名ですね。



黒くて丸い実がなっています。イヌホオズキの仲間です。これは恐らくテリミノイヌホオズキだと思いますが、頼りない言い方になったのは、この仲間には種類が多くどれもよく似ているので「の仲間」としました。大型の雑草でどこでも普通に見られます。ナス科の植物ですから、花は同じ仲間のトマトやシシトウなどによく似ていますね。



地面に這うよう生えているヤブコウジです。草のように見えますが常緑の木です。葉の緑と実の赤がいいコントラストですね。センリョウやマンリョウと並んで、これをジュウリョウと呼ぶ方もいらっしゃいます。万葉の昔は「やまたちばな」と呼ばれていました。ところで、百両、一両もあるのかな？ 松下